

特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの

平成 24 年度 第 11 回総会

平成 24 年 6 月 10 日（日）

（審議事項）

議案 1（平成 23 年度事業報告および決算報告）

事業報告書は別紙 1－1、収支計算書及び監査報告は別紙 1－2 及び 1－3 のとおり。

議案 2（役員の変更）

役員の変更は別紙 2 のとおり。

（提案事項）

提案 1（平成 24 年度事業計画及び収支予算）

事業計画、収支予算は別紙 3 のとおり。

以 上

別紙 1 - 1 (平成 23 年度事業報告書)

1. まちづくり事業

1) 地区計画等のまちづくりの構想や計画の策定

(1) 武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施 (新規)

➤ 事業成果(担当: 塩澤、村井、高田、篠原)

➤ 平成 21~22 年度に武蔵野市委託事業として「都市マスタープラン改定地区別意見交換会」の運営を担い、その成果である「まちづくりの課題」の解決に向けて次の 3 つの取り組みを実践していくこととした。

(1)地区別意見交換会の成果における「まちづくりの課題」に関して、その解決に向けた市民の主体的なまちづくり活動が行われる際には、責任を持って積極的に支援していく。

(2)そのために必要な支援の仕組みの構築を行っていく。

(3)改訂都市マスタープランと連動して、定期的に「まちづくりの課題」に関する取り組み状況の確認を行い、その上で課題解決に必要な方策を検討し、必要があれば、市などまちづくり関係者に提案していく。

➤ 以上を実践するための第一歩として、平成 23 年 1 月 20 日(木)に、コミュニティ協議会及びコミュニティ研究連絡会の協力を得て、「コミュニティ協議会との連携による支援の仕組み勉強会」を開催。これは上の①と②を実践するために、地域の実情をよく知るコミュニティ協議会の方と連携して、市民のまちづくり活動を支援する仕組みをつくることできないかと考えて実施。参加者からの意見を基に、次の5つを実践していくことにした。

①住民の相談毎やつぶやきを把握しやすいように、地区担当者が、コミュニティ協議会や他の地域の方との個人的な信頼関係を築くことを目指す。その方法は地区担当者の考えに委ねるが、地区担当者は、協議会や他の地域団体など、地域の方と接する中で、地域の実情を把握、理解し、協力できることは協力する姿勢を持つ。

②市民の活動を支援するための判断基準となる「都市マスタープラン改定地区別意見交換会」の成果として取りまとめた「まちづくりの課題」を、インターネットでいつでも見られるようにするなど、多くの方と共有できる仕組みをつくる。

③実際に支援した事例を紹介したニュースレターなどを、協議会や他の地域団体に配布して、支援活動に対する理解を広める。

④市民が気軽に参加して、自分が暮らす街の魅力を再発見する機会となる事業プログラムを開発。

⑤こうした事業も含めて、市民に当会の活動の意義を理解してもらうための広報に取り組む。

➤ 上記①の考え方に基づいて、平成 23 年度中に「まちづくりの課題」に関連した市民の主体的なまちづくり活動に対し、当会が支援を行ったのは次の3事業。

A. 吉祥寺西コミュニティ協議会による街並みウォッチング(平成 23 年 9 月 27)日実施)

B. 第2回吉祥寺西コミュニティ協議会街並みウォッチング(平成 24 年 2 月 26 日実施)

C. 三鷹駅北口地区まちづくり準備会の取り組み。西久保一丁目内に新築する際にシンボルツリーの植栽をお願いする等。

D. 九浦のつどい講師派遣「高さ制限について」平成 23 年 5 月 24 日実施。

➤ これらについては、上記③の実践として「地域と連携したまちづくり事例ニュースレター」を発行する。A. については事例 No.001として、平成 24 年 2 月 6 日に発行。

➤ ニュースレターの裏面には、この事例が「まちづくりの課題」のどの部分に該当する取り組みなのか、また改定都市計画マスタープランに掲げられたどの方針に関連するのかを示す。

➤ つまり、上記(3)の考え方に基づき、ニュースレターの発行に連動して、市民の主体的なまちづくり活動を通

じた、改訂都市計画マスタープランの推進状況をモニタリングする仕組みを試験的ながら構築したもの。今後、当会独自の取り組みも含めて、この取り組みを継続することで、数年経過後に市民による改訂都市計画マスタープランの推進状況を把握することができる。

- 都市計画マスタープランに示した市民によるまちづくりの実践のモニタリングを以上のような形で実施していくことで昨年度はひとつの形をつくった。これは間接的に、行政による計画推進状況のモニタリングにもつながる。
- ただし、行政や企業、市民協働によるまちづくりの推進状況を直接的にモニタリングする方策については、昨年度は具体的な調査研究やプランを行うまでには至らなかった。他市における事例などに学びながら、この調査研究を進めるとともに、上記のように、一步一步着実に市民のまちづくり活動を通じてまちづくりの動きを把握していくことが、都市計画マスタープランのモニタリング及び実践につながるものと考えられる。

2) まちの利便、景観、環境、安全等の保全や向上に資する実践活動

(2) コミュニティ支援事業（継続）

- 事業内容： 境 1 及び 3 丁目、境南町 1 丁目コミュニティ拠点づくり活動の見守りと具体的な要請があった場合の協力。
- **事業成果(担当:清本)** → 特段具体的な要請はなく一定の形はできていることから、当面は見守る方針。平成 23 年 1 月 27 日、本村公園のワークショップに参加（山田）。
- 事業内容： 八幡町コミュニティセンター新設に伴う検討コミセン業務の見守りと必要な場合の支援。
- **事業成果(担当:山田)** → 一昨年度は要請に対応したが、昨年度は特に具体的な要請はなかった。

(3) 「外環の地上部街路に関する話し合いの会」への副司会者の派遣（継続）

- 事業内容： 昨年度は次のように話し合いの会に副司会者を派遣。他の役員も随時オブザーバーとして参加。
- **事業成果(担当:村井、森、南、篠原)** → 客観的にみても、都側との議論は議論になっておらず、経緯からしても、地権者や市民側における不信感はぬぐえない。こうした状況においては、やはり第三者的に副司会者を派遣することは意義あるものと考え、一度は対応を見直したものの、要請を重視し、平成 23 年度も継続的に村井副代表を副司会者として派遣。依然として東京都がどうしたいのか、具体的なイメージは不透明。東京都の事務局担当者は、2 名が人事異動で交代。

第 8 回 平成 23 年 5 月 9 日

第 9 回 平成 23 年 11 月 4 日

第 10 回 平成 24 年 2 月 10 日

第 11 回 平成 24 年 5 月 24 日

(4) 「三鷹駅北口地区まちづくり準備会」の推進（新規）

- 事業内容： 出前講座という位置づけではなく、今年度から、まちづくり活動の実践と位置づけ、当会議の事業として位置づける。
- **事業成果(担当:高田、塩澤)** → 三鷹駅北口のパチンコ屋建設に端を発したコミュニティ活動が昇華し、三鷹駅北口地区まちづくり準備会が発足。高田副代表及び事務局塩澤が主体的に会合に加わり、まちづくりウォッチングや勉強会を毎月 1 度のペースで実施。準備会から地区まちづくり協議会を立ち上げ、地区まちづくり計画を策定し、市に認定してもらうことを目標として活動(会長は山脇氏)。三鷹駅北口ニュースを既に 3 回発行。メッセ de メッセージでは、当会と共同してプレゼンを実施(高田)。北口駐車場の開発の

見通し等について議論。三鷹駅北口の高さ制限につき勉強。三鷹駅北口のまちづくりシンポジウムを開催につき、共同主催の要請を受けたが「共同でも構わないが、趣旨からすると、準備会が中心となって主催し、まちづくり会議などが後援あるいは協力する形の方が望ましい」と回答(当会としては、都市計画マスタープランやまちづくり条例における市民によるまちづくりの実践事例につながるものとして、全面的な支援を約束)。

(5)むさしの減災まちづくり調査研究 (新規)

- 事業内容: 東日本大震災 3.11 の教訓を活かした新たなむさしの減災まちづくりのあり方を研究する(市補助金を活用)。詳細は添付の企画書を参照。広く会員からも参加者を募る。
- **事業成果(担当: 篠原、森、山田、南、清本、井部)** → 第1回研究会では、コミュニティにおける対応について井部氏(吉祥寺東コミュニティ協議会長)、第2回研究会では市の防災や減災に対する体制や今後の考え方を防災安全部の笹井部長からヒアリング。第3回研究会では、国分寺市役所や防災都市計画所を経て、現在 NPO 法人くらしの安全安心サポートで理事長を勤める中村八郎氏を招き、阪神淡路など過去の震災や 3.11 の経験に基づく市民参加の防災についてお話を聞きし議論した。市からの補助金 15 万円に基づき、中村氏による講演内容を報告書にまとめコミセンや市民等に配布。
 - 第1回研究会: 平成 23 年 9 月 9 日(定例会)「近隣市区における防災計画について」
 - ・東京都、武蔵野市、杉並区、三鷹市の防災計画や対応状況について、各々、南、森、村井、篠原から調査結果を報告。
 - ・市民やコミセンによる防災への取り組みについて報告(井部)。
 - ・武蔵野市の防災・減災のあり方について議論
 - 第2回研究会: 平成 23 年 10 月 7 日「武蔵野市の防災体制について」
 - ・武蔵野市防災安全部 笹井部長の講演と議論
 - ・現在の武蔵野市地域防災計画は機能しない。新たな計画策定に期待。
 - 第3回研究会: 平成 23 年 10 月 20 日「大震災から学ぶ市民の教訓と自治体防災のあり方」
 - ・NPO 法人くらしの安全安心サポーター理事長、中村八郎氏の講演と議論
 - ・防災計画を見直しても、大規模震災に対する減災効果はない。住宅の倒壊を防ぎ火災発生を防ぐのが最も有効。
- 中村氏講演内容: 応急の救援活動を中心とした防災安全部門とだけ話しても、都市型大規模震災への備えはできない。都市整備課や住宅課を巻き込み、抜本的な防災対策をとる必要がある都市型大規模震災に対する最大の備えは家屋の耐震化推進と危険なブロック塀の改修。耐震化事業は思うように進まないがそれは補助金の額の問題だけではない。武蔵野市でも耐震化が進まない理由をつきとめ、旧耐震構造の住宅に加え、新耐震でも 2~3 割はある危険住宅の耐震化を進めるべき。住宅の全壊と延焼に続いて危険なのが、各住戸を取り巻き、道に面した塀。特にブロック塀には鉄筋のない危険なものが多く、大谷石などは大地震の際には簡単にくずれ、通行人に危険なだけでなく、救援活動を行う車の通行を妨げる。中村氏は、国分寺市高木町で 800 カ所もあった危険なブロック塀等を、コミュニティ活動を通じて、ほぼ全数改修もしくは取り除いたという実践的なお話を聞いた。当会の今後の活動につながる課題である。
- 平成 24 年 3 月 24 日「武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告会」にて、本事業の報告を行い(合計 13 団体)、補助金 15 万円を請求(入金済み)。

2. まちづくりに関する調査研究事業

1) まちの現状や計画、まちづくり制度に関する情報収集及び研究

(6) 景観・観光をテーマにしたまちづくりの検討－地区カルテ部会（継続）

- 景観・観光をテーマにしたまちづくりの検討を継続し、市に対する景観条例策定に向けた勉強会等を提案する。優れた景観条例等を有する他市や学識経験者、専門家、NPO 等を訪ねたり、招いたりして勉強会を開催する。
- **事業成果(担当：南、村井、高田)** → 景観・観光をテーマとした勉強会は未実施。ただし、関連業務として以下を実施。
 - ・三鷹駅北口地区まちづくり準備会による鎌倉市の景観整備状況調査（担当：塩澤）

(7) 商業地活性化部会・UD 部会合同（継続）

- 事業内容： イースト吉祥寺デザインガイドラインを活用することだけではなく、イースト地区の再生につながる課題について、協議会等の要請に応じて活動を行う。
- **事業成果(担当：河田、山田)** → イーストまちづくり協議会にて、イーストまちづくり方針を策定(河田)。同説明会に役員参加(山田、勝倉他)、個別に意見を提示(ファックス)。
 - 第1回説明会 平成 23 年 2 月 28 日 本町コミュニティセンター
 - 第2回説明会 平成 23 年 3 月 10 日 同上

2) まちづくりへの市民参画に関する情報収集及び研究

(8) まちづくり支援活動勉強会の開催（継続）

- 事業内容： 引き続きコミュニティ協議会等とは、各地区担当を中心に連携の深化を行う。協力要請があった場合には、まちづくり会議として対応する。「武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施」事業や「むさしの減災まちづくり調査研究」などの機会を通じて、コミュニティ協議会とは広く連携を模索する。
- **事業成果(担当：各地区担当者)** → 1. 1) (1) の通り。

3. まちづくりに関する教育事業

1) まちづくりに関する講習会、シンポジウム等の開催

(9) 都市マスタープランのモニタリング勉強会（新規）

- 事業内容： 「武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施」事業を活用し、勉強会を開催する。
- **事業成果(担当：塩澤、高田、村井、篠原他)** → 1. 1) (1) の通り。
- 「むさしの減災まちづくり調査研究」事業を活用し、勉強会や研究会等を開催する(担当：山田、森、清本、井部他)。
- **事業成果(担当：篠原、山田、森、清本、井部他)** → コミセンに報告書を配布したが勉強会の開催は未実施。西部コミセンの協議会長からは、勉強会の開催につき打診あり。

2) まちづくりに関する講師派遣

(10)まちづくり出前講座の実施（継続）

- 中央北地区意見交換会のフォローアップ。
- **事業成果(担当：村井)** → 特に進展なし

3)まちづくりに関する研修

(11)日帰りバス研修

- 事業内容： バス研修を計画・実施(担当:南)。山梨県甲州市勝沼地域を視察し、地域に残る歴史遺産の保全と活用方法を学ぶ。
- **事業成果(担当：南、井部、中川)** → 山梨県甲州市の勝沼地区を訪問し、江戸時代から続くブドウ栽培の歴史と、そのブドウに付加価値をつけるために明治時代に導入されたワイン生産の歴史、さらにこれらの地域資源を活かした観光まちづくりの取り組みについて行政担当者からレクチャーを受け、実際の現場を見学。

4. まちづくりに関する普及啓発事業

1) 機関紙、研究報告書、啓発書の発行

(12)機関誌「まち」の継続発行

- 事業内容： 機関誌「まち」を年度内4回ほど発行する。
- **事業成果(担当：森、南、石川)** → 2回発行
「まち、都市計画マスタープランへの取り組み、景観研修会、バス研修」平成23年7月 No.42
「むさしの減災まちづくり研究会、バス研修報告、地域との連携：吉祥寺西コミュニティ協議会による街並みウォッチング」平成23年12月 No.43

(13)報告書の発行

- 事業内容： 「武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施」事業及び「むさしの減災まちづくり調査研究」事業の報告書を発行する。
- **事業成果(担当：篠原他役員)** → むさしの減災まちづくり研究については報告書を作成配布。

2) ホームページの開設・運営

(14)ホームページのリニューアル

- 事業内容： 引き続き当会議のホームページの更新、維持、管理を推進し、会員や市民に対する情報提供ツールとして位置づける。
- **事業成果(担当：山田、森、石川、内門)** → 管理更新を可能とするHPの立ち上げを目指し、今年度に予算を計上することを役員会で合意。とりあえず、以前のHP(塩澤氏管理)に、当面のまちづくり会議の活動情報を掲載済み。

5. まちづくり又はその研究や普及啓発を目的とする団体との情報交換及びネットワークの構築事業

(15)武蔵野NPO・市民活動ネットワークへの参画（継続）

- 事業内容： 団体登録を継続。武蔵野NPO・ネットに役員を派遣し先方事業推進を支援する。

- **事業成果(担当：清本、篠原)** → 理事会や編集会議等に参加、ニュース発行(清本)、メッセージ de メッセに参加し当会のプレゼンを実施(清本、篠原)、納税業務を担当(篠原)。

(16)くらしフェスタむさしの 2010 への参加 (継続)

- 事業内容：消費者生活団体登録を継続。今年度は、むさしの減災まちづくり調査研究の成果を活用し、被災時の生活の確保等の課題を提示する。
- **事業成果(担当：井部、森、山田)** → 平成 23 年 10 月 14 日・15 日実施。「市民生活の安心と減災のまちづくり」をテーマにパネル展示を実施。

(17)男女共同参画のまちづくりの検討 (継続)

- 事業内容：男女共同参画推進団体登録の継続及び協働事業の実現。
- **事業成果(担当：中川、篠原)** → 協働事業は未実施。平成 24 年 4 月 14 日「東日本大震災から 1 年、震災と女性とくらし 3.11 私たちのあした」に参加(篠原)。

(18)「武蔵野の森を育てる会」企画会議等への参加(新規、当初事業計画になかったもの)

- 事業内容：境山野緑地で活動する「武蔵野の森を育てる会」の要請を受け、今後の森の育成や更新、活用などについて話し合う会に定期的に参加し、情報提供等を行った。
- **事業成果(担当：南、村井)** → 境山野緑地は、周辺住民との意見の相違等により、雑木林の育成や更新について計画に沿った事業が実施できない状況にある。平成 23 年度は、市民への啓発や PR のために講演会を企画、森の更新について新たな方向性が見出された。境山野緑地で育てた「むさしの産どんぐりの木」を今後整備するクリーンセンターへ供給するという発想が生まれ、クリーンセンターとの連携による緑化は、環境問題への取り組みの広がりとして、今後の展開が期待される。

平成 23 年 10 月 2 日	企画会議「バス見学と学習会の企画」
平成 24 年 1 月 19 日	武蔵野 Talkin' About 「武蔵野を語ろう 森と自然編」、境山野緑地(独歩の森)を多くの人に親んでもらうためのアイデア
平成 24 年 2 月 25 日	武蔵野 Talkin' About 「武蔵野を語ろう 森と自然編」、境山野緑地(独歩の森)を地域全体で楽しみ、まちづくりに生かしていく活動を実現するための企画について
平成 24 年 4 月 8 日	武蔵野の森を育てる会「講演会と見学会ふり返りの会」、講演会と見学会から学んだことの共有化(今後の独歩の森の保全についての自由な意見交換を含む)について
平成 24 年 5 月 12 日	独歩の森の会(武蔵野 Talkin' About の継続プログラム)独歩の森(境山野緑地)の今年度の活動企画等について

(19)日本獣医生命科学大学の地域懇親会に参加(新規、当初事業計画になかったもの)

- 事業内容：境・境南地区における地域住民・団体との懇親会に参加
- **事業成果(担当：清本、山田、篠原)** → 平成 24 年 5 月 10 日の懇親会に参加。

6. その他目的を達成するために必要な事業

- **事業内容:** 事務機能の強化(当会議専用 PC やサーバーを活用し、これまでの活動記録や成果をデータベースとして活用できるようにする。当会議の定款や登記、活動案内、ポスターやチラシ、実務的書類(レターヘッド、名刺、領収書、請求書など)を整理し、いつでも利用できるようにする。
- **事業成果(担当: 森、石川、内門) → 事務局にできるだけ情報を集約。**
- **事業内容:** 出納の仕組みを整備するとともに、当会議の今後の活動範囲の拡大を念頭に、適切な会計ルールの作成と運用を行う(井部、中川、内門、森)。
- **事業成果(担当: 井部、中川、内門、森) → 入金と支払管理をまとめ、事務局にて一括管理する仕組みに移行。**
- **事業内容:** 事業の集中があったものの、昨年度において定例会が1度しか実施できなかったことを反省し、より一層会員が事業に参加できるようにするとともに、年度内に定例会を5回実施する。誰もが予定しやすいように、予め日程を7月8日、9月9日、11月11日、平成24年1月11日、3月9日に実施するものとする。
- **事業内容:** 武蔵野市市民活動基本計画(平成24~33年度)
- **事業成果(担当: 篠原、清本) → 平成23年12月10日の中間報告に対するヒアリングに参加。12月16日までのパブリックコメント募集に対し当会としての意見・修正要望を提出。**

(参考)

平成23年6月11日	総会 商工会館
7月8日	定例会 商工会館
8月2日	役員会 西久保コミセン
8月29日	役員会 武蔵野プレイス
9月9日	定例会商工会館
12月9日	定例会 商工会館
平成24年1月13日	定例会 商工会館
2月4日	部会 本宿コミセン 外環減災ウォッチング下見
3月9日	定例会 商工会館
4月12日	役員会 商工会館

以上

別紙 1 - 2 (平成 23 年度収支計算書)

平成23年度収支計算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

単位:円

	収入	支出
会費・入会金		
入会金	0	
会費	60,000	
事業		
(1)まちづくり事業		
減災まちづくり調査研究	150,000	165,605
外環の地上部街路話し合い	68,000	
(2)教育事業		
バス研修	63,000	59,340
(3)普及啓発事業		
ホームページの運用		12,455
ニュースレター発行		7,196
(4)交流事業		
NPO市民ネットワークへの参加		12,788
その他収入		
寄付	660	
利息	131	
事務管理費		
消耗品		6,610
通信費		2,100
合計	341,791	266,094

収支差額	75,697
期首繰入(前期残高)	607,134
期末繰越(当期末残高)	682,831

別紙 1 - 3 (会計監査報告)

「特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの」の平成23年度の会計処理について、会計原則に基づいて精査しましたところ、全てが適正に処理されていることを確認しました。

平成24年5月18日

特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの

監事 勝倉 啓仁



監事 石川 知穂



別紙2（役員の変更）

平成24年7月1日付けで役員任期満了などに伴い、次のように役員・執行役員の変更を行う（任期：平成24年7月1日から2年間）。

法人役員

旧		新	
役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	篠原 二三夫	理事長	篠原 二三夫
理事	清本 和子	理事	清本 和子
理事	森 浩	理事	森 浩
理事	山田 朗	理事	山田 朗
監事	石川 知穂	監事	石川 知穂
監事	勝倉 啓仁	監事	勝倉 啓仁

執行役員

旧		新	
代表	篠原 二三夫	代表	篠原 二三夫
副代表(事業)	河田 弘昭	副代表	河田 弘昭
同(広報)	高田 典夫	同	高田 典夫
同(企画)	南 賢二	同	南 賢二
同(事業)	村井 寿夫	同	村井 寿夫
同(総務)	森 浩	同	山田 朗
同(事業)	山田 朗		
会計	井部 文哉	会計補佐	井部 文哉
同	中川 瑛子	(退任)	中川 瑛子)
事務局長	森 浩(兼務)	事務局長	内門 秋弘
監事	石川 知穂	監事	石川 知穂
同	勝倉 啓仁	同	勝倉 啓仁
		顧問	清本 和子
顧問	清本 和子	顧問	森 浩

別紙3-1（平成24年度事業計画）

1. まちづくり事業

1) 地区計画等のまちづくりの構想や計画の策定

(1) 武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施（継続、主担当：塩澤、個別（副）担当：各地区担当者）

- 昨年度に引き続き、当会が支援した市民の主体的なまちづくり活動や、当会が地域住民と連携して実施した活動について、ニュースレターの発行に連動して、「まちづくりの課題」の位置付けと改訂都市計画マスタープランとの関連を確認し、記録する取り組みを実施。
- 市民によるまちづくり活動から、間接的に、行政による計画推進状況のモニタリングを行う方法を検討。
- 行政や企業、市民協働によるまちづくりの推進状況を直接的にモニタリングする方策について、他市における事例などを調査し学びながら、都市計画マスタープランのモニタリング方策を検討する。

2) まちの利便、景観、環境、安全等の保全や向上に資する実践活動

(2) コミュニティ支援事業（継続、支援要請を受けた役員が主担当となる）

- 事業内容： 市内各地におけるまちづくり活動に対する支援を実施する。

(3) 「外環の地上部街路に関する話し合いの会」への副司会者の派遣等（継続、主担当：村井、副担当：南、井部、中川、塩澤、篠原）

- 事業内容： 市民からの要請に対応し、副司会者の派遣を継続する。ただし、別途、当会として、外環地上部街路に関する調査研究を実施し、もう一步踏み込んだ取り組みができないかを検討する。
- 状況に応じて道路計画や周辺まちづくり、地域防災との関連について勉強会の実施や助言等を行う。

(4) 「三鷹駅北口地区まちづくり準備会」の推進（継続、主担当：高田、副担当：塩澤）

- 事業内容： 引き続き準備会の活動を支援。ただし、地域的な自立性を促すため、当会としての支援の意図をコミュニティに正しく理解いただくため、活動の主体は常に準備会に置き、当会は準備会の一員である高田副代表と塩澤氏を通じて側面から支援を続ける。まちづくりシンポジウムの開催については、後援等によって強力的に支援する。

(5) むさしの減災まちづくり調査研究（継続、主担当：篠原、副担当：南、村井、清本、井部、中川）

- 事業内容： 国、東京都、武蔵野市といった各レベルにおける防災・減災（地域）計画の最新の見直し状況について調査やヒアリング、勉強会を実施。今年度は補助金を申請しない。
- 外環地上部街路に関する調査と連携し、減災・防災を念頭に置いたウォッチングを実施（昨年度下見のみ実施）。その他地区においても、住宅の倒壊や火災、ブロック塀等の状況、避難路確保等の観点、コミュニティにおける安全確保を念頭としたウォッチングを実施し、減災協働体の組織化を促す。
- 都市計画マスタープランの実践とも連動した減災へのコミュニティ単位の取り組みを促す。
- 市の防災安全部門のみならず、都市整備課やまちづくり推進課、住宅課との協働の可能性を検討する。
- シンポジウム開催の有効性検討の上、状況に応じて実施。

2. まちづくりに関する調査研究事業

1) まちの現状や計画、まちづくり制度に関する情報収集及び研究

(6) 景観・観光をテーマにしたまちづくりの検討（継続、主担当：南、副担当：村井、山田、河田）

- 景観整備に関する武蔵野市の取り組み状況の把握し、今後の連携方策、たとえば、武蔵野市に対する景観条例策定に向けた勉強会等を提案する。優れた景観条例等を有する他市や学識経験者、専門家、NPO等を訪ねたり招いたりする機会や場を設ける。市長との懇談の場を設け、景観整備に向けた具体的な活動に着手する。
- 観光については、武蔵野市観光推進計画(平成19年度)の検証と武蔵野市観光推進機構の活動状況の把握、ヒアリング等を把握し、武蔵野市における今後の観光まちづくりの方向性を検討する。

(7) 商業地活性化部会・UD部会合同（継続、主担当：河田、副担当：山田）

- 事業内容：引き続き、河田副代表を通じ、イースト吉祥寺のより再生が進むように支援を続ける。

2) まちづくりへの市民参画に関する情報収集及び研究

(8) まちづくり支援活動の実施（継続、主担当：塩澤、副担当：篠原他地区担当者）

- 事業内容：コミュニティ協議会等とは、各地区担当を中心に連携の深化を行う。協力要請があった場合には、まちづくり会議として対応する。「武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策の検討や「むさしの減災まちづくり調査研究」などの機会を通じて、コミュニティ協議会とは広く連携する。
- 武蔵野市都市マスタープラン改定に伴う地区別意見交換会運営等委託（武蔵野市委託事業）に基づく武蔵野市都市マスタープラン改定に対する提案書平成22年5月に示した、地区別意見交換会の成果と提案書の取り扱いの考え方の1つである「①地区別意見交換会の成果における「まちづくりの課題」に関して、その解決に向けた市民の主体的なまちづくり活動が行われる際には、責任を持って積極的に支援していく」に基づき、市民の主体的なまちづくり活動を支援していく。

3. まちづくりに関する教育事業

1) まちづくりに関する講習会、シンポジウム等の開催

(9) 都市マスタープランのモニタリング勉強会（継続、主担当：塩澤、副担当：その他役員）

- 事業内容：「武蔵野市都市計画マスタープラン推進状況のモニタリング方策検討及び実施」事業を活用し、勉強会を開催する。
- 「むさしの減災まちづくり調査研究」事業を活用し、勉強会や研究会、シンポジウム等を開催する。

2) まちづくりに関する講師派遣

(10) まちづくり出前講座の実施（継続、主担当：各担当役員、管理：事務局長）

- コミュニティの要請に対応し、積極的に専門家を派遣する。

3) まちづくりに関する研修

(11) 日帰りバス研修（継続、主担当：南、副担当：井部、中川、管理：事務局長）

- 事業内容：群馬県みなかみ町の須川地区を訪れ、農村環境や歴史資源、自然景観等を活かした地域振興の取り組み実績やその手法を学ぶ予定(既にバスは割り当てを受けている)。
- 今後の研修のあり方を見直し、新たなプログラムの導入を検討する。

4. まちづくりに関する普及啓発事業

3) 機関紙、研究報告書、啓発書の発行

(12)機関誌「まち」の継続発行(継続、編集長: 高田、編集員: 塩澤、執筆: 各担当、管理:事務局長)

- 事業内容: 機関誌「まち」を年度内2~4回ほど発行する。

(13)報告書の発行(継続、各担当者)

- 事業内容: 各事業の推進状況や結果については、報告書にまとめ、原則として、当会のウェブにて公表していくものとする。

●

4) ホームページの開設・運営

(14)ホームページの更新等(継続、主担当者:篠原、副担当者:山田、石川、塩澤、管理:事務局長)

- 事業内容: 仮のホームページに依存することなく、当会議のホームページのリニューアルを行い、成果や情報を広く市民と共有する。このため必要な予算措置を講じる。

5. まちづくり又はその研究や普及啓発を目的とする団体との情報交換及びネットワークの構築事業

(15)武蔵野NPO・市民活動ネットワークへの参画(継続、主担当:篠原、副担当:清本)

- 事業内容: 団体登録は継続。ただし、役員派遣(昨年度は清本、篠原)は、今年度から取りやめる。

(16)くらしフェスタむさしの2012への参加(継続、主担当:南、副担当:井部、篠原)

- 事業内容: バス研修で訪れた群馬県川場村をモデルとして、「都市と農村の交流による農産品等の消費拡大」について報告と提案を行う。

(17)男女共同参画のまちづくりの検討(継続、主担当:中川、副担当:篠原)

- 事業内容: 男女共同参画推進団体登録の継続及び協働事業の可能性を検討。

(18)「武蔵野の森を育てる会」企画会議等への参加(継続、主担当:村井、副担当:南)

- 事業内容: 境山野緑地で活動する「武蔵野の森を育てる会」の要請を受け、今後の森の育成や更新、活動等について引き続き情報提供等を行う。また、クリーンセンターとの連携による緑化事業の実現に向けて働きかけを行う。

6. その他目的を達成するために必要な事業

- 事業内容: 事務機能の強化(継続、主担当:内門、副担当:石川、塩澤)。当会議専用PCやサーバーを活用し、これまでの活動記録や成果をデータベースとして活用できるようにする。当会議の定款や登記、活動案内、ポスターやチラシ、実務的書類(レターヘッド、名刺、領収書、請求書など)を整理し、いつでも利用できるようにする。
- 事業内容: 出納の仕組みを整備するとともに、当会議の今後の活動範囲の拡大を念頭に、適切な会計ルール作成と運用を行う(継続、主担当:内門、副担当:井部、中川)。
- 事業内容: 予め定例会の日程を7月、9月、11月、1月、3月の第2金曜日とする(年5回)。

以上

別紙3-2 (平成24年度予算)

収入

昨年度繰越	¥682,831	
1 会費・入会金収入		
入会金収入	¥6,000	昨年度実績より、2名入会と想定
会費収入	¥60,000	昨年度実績(2名増員、2名欠員)より増員無しとして30名分
2 事業収入		
1 まちづくり事業		
2 まちづくりに関する調査研究事業	¥72,000	バス研修参加者負担
3 まちづくりに関する教育事業		
4 まちづくりに関する普及啓発事業		
5 まちづくりに関連する団体との交流等事業		
3 補助金等収入 (まちづくり事業)	¥0	むさしの減災まちづくり調査研究
4 寄付金収入	¥100,000	昨年度実績+外環
収入合計	¥920,831	

支出

1 事業費		
1 まちづくり事業		
都市マスタープラン推進状況モニタリング方策検討及び実施	¥80,000	謝礼、資料、交通費、コピー等
コミュニティ支援事業	¥40,000	4件の支援を想定¥10,000/件
三鷹駅北口地区まちづくり準備会	¥30,000	シンポジウム等対応
むさしの減災まちづくり調査研究	¥80,000	謝礼、資料、交通費、コピー等
2 まちづくりに関する調査研究事業		
景観・観光研究	¥40,000	訪問先謝礼等
商業活性化部会・UD部会	¥10,000	資料、交通費、コピー等
3 まちづくりに関する教育事業		
都市マスタープラン改定素案・意見交換会	¥0	まちづくり事業に含む
バス視察		
企画経費	¥5,000	情報収集、資料収集、コピー等
開催実費	¥70,000	参加者負担と補助でカバーできる見込み
4 まちづくりに関する普及啓発事業		
原稿料	¥4,000	ゲスト執筆者に対し1回¥1,000、4人を想定
編集経費	¥20,000	1号発行あたり¥5,000
ニュース発行	¥6,000	年4号発行を想定
ホームページの更新・維持管理	¥120,000	再作成費用を含む
5 まちづくりに関連する団体との交流等事業		
武蔵野NPO・市民活動ネットワーク参加、フェスタ準備費用	¥10,000	会費及び交通費、文具、材料費
6 その他事業		
予備費	¥10,000	
2 管理費		
事務局運営費	¥30,000	事務局職員への経費支払い
3 予備費	¥5,000	
支出合計	¥480,000	
収支差額(次期繰越金)	¥440,831	

参考：平成 24 年度会員名簿

1	代 表	篠原 二三夫	理事長
2	副代表	河田 弘昭	理事
3	〃	高田 典夫	
4	〃	南 賢二	
5	〃	村井 寿夫	
6	〃	山田 朗	理事
7	会計補佐	井部 文哉	
8	監 事	石川 知穂	監事
9	〃	勝倉 啓仁	監事
10	顧 問	清本 和子	理事
11	〃	森 浩	理事
12	事務局長	内門 秋弘	
13	会 員	塩澤 誠一郎	
14	〃	中川 瑛子	
15	〃	西村 まり	
16	〃	原 利子	
17	〃	加藤 厚子	
18	〃	高田 昭彦	
19	〃	田辺 軌夫	
20	〃	深田 貴美子	
21	〃	川名 ゆうじ	
22	〃	内山 さと子	
23	〃	中島 敏	
24	〃	東 貴雄	
25	〃	手塚 一郎	
26	〃	きくち 太郎	
27	〃	中村 郁博	
28	〃	竹山 悠紀子	
29	〃	○ 山本 ひとみ	
30	〃	◎ 渡辺 健	

○は 23 年度再入会者 ◎は 24 年度入会者

